

国連持続可能な開発のための教育(ESD)について

- 持続可能な開発(SD)とは、1987年に、「環境と開発に関する世界委員会」により、「将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在の世代のニーズを満たすような開発」として提案された。
- これは、すべての人が公平に、健康で文化的な生活を営むために必要な開発を世界が協調して取り組み、かつ、その開発を資源の有限性、自然の回復力を意識した節度あるものとし、将来世代へと持続する社会づくりとするもの。
- 世代間の公平、地域間の公平、男女間の公平、社会的寛容、貧困削減、環境の保全と回復、天然資源の保全、公正で平和な社会などが持続可能性の基礎となる。
- すなわち、環境の保全、経済の開発、社会の発展を調和の下に進めていくことが持続可能な開発である。
- この持続可能な開発のために教育が極めて重要な役割を担うことから、国連において、2005年からの10年を「国連持続可能な開発のための教育の10年」としたもの。

